

### 講演要旨

#### 1. 世界は深刻な水不足に直面

日本に暮らしていると実感がないが、世界では深刻な水不足に直面している。人口増加と経済発展で水不足が加速度的に進行しており、国連の予想では、世界人口百億人（二〇五〇年）のうち四十億人が水ストレス（十分に使用できない状態）を受けるだろうと警告している。一九六一年ソビエトのガガーリン少佐が、人類で初めて宇宙空間から地球を見たときに「地球は青かった」と有名な言葉を残し、それ以来人々は、地球は水の惑星と思い込んだが、それは大きな間違いであった。地球上にある水、海水が97・5%、淡水が2・5%であるが、淡水の八割は氷河、氷山で固定され、我々が直接使える淡水資源は水資源の0・01%しかないのだ。

#### 2. 人口増加と水資源

過去百年間の人口増加と水需要を比較すると、人口増加率の二倍が水需要である。

つまり人口が増加すると二倍の水需要が発生する。現在でも不足している水資源だが、二〇五〇年には、水が絶対的に不足する。特に人口増加と経済発展が著しいアジア諸国

では、水不足が深刻となる。現在世界の水資源の約五割をアジア諸国が消費しているが、二〇二五年には七割以上を消費するものとみられている。経済発展の他に、生活文化の向上に従い、水の需要が倍加する、入浴回数増加、水洗トイレの普及、庭への散水などである。

## 世界と日本の水問題を考える

グローバルウォータ・ジャパン代表  
**吉村和就** (昭和42年卒)  
(国連テクニカルアドバイザー、麻布大学客員教授)



#### 3. 世界で頻発する水争い

人間に必ず必要なものが不足すると、そこに紛争とビジネスが生ずるのは当然のことである。世界には約二百七十の国際河川があり、その流域では水争いが頻発している。ヨルダン川、ナイル川、チグリス・ユーフラテス河、メコン河など枚挙にいとまがない。

#### 4. 大国の水問題

領土が広い大国でも水不足に直面している。米国、中国、豪州などが挙げられる。世界の穀物市場を支えている米国の水不足は深刻であり、オガララ滞水層（日本の面積の

「ライバルの語源はリバー」であり、人間の最初の争いは川の水をめぐる争いであった。

1・2倍、八州にまたがる地下水層）が枯渇に直面している。この地域の年間降雨量は五百ミリ（日本は平均千八百ミリ）であり、長年に渡り地下に貯留された化石水を、巨大なポンプでくみ上げ、大型スプリンクラーで灌漑し農作物を栽培し、その農産物を海外に輸出して外貨を稼いでいるのが農業国・米国の本当の姿なのである。つまり水資源問題が、国家財政と直結しており、オバマ政権は、水

タスクフォースチームを立ち上げ、水問題解決に注力している。

隣国の中国の水問題は危機的な状況である。今年二月に放送されたNHK総合のクロージングアップ現代「中国の水ビジネスをつかめ」で筆者はスタジオゲストとしてコメントを述べたが、中国は世界人口の約20%を占めるが、その水資源は世界の5%しかない。そもそも水資源が不足の上に、急激なる経済発展により水質汚濁が加速度的に進行し、中国7大河川の八割以上が飲料不可であり、地下水も農業や重金属汚染により浅層地下水は既に飲料不可となっている。断流（川の水が海まで到達しない）も頻発している。二〇〇九年に筆者が上梓した「水ビジネス110兆円水市場の攻防」（角川書店発行）で中国の水問題を取り上げ「黄河文明で繁栄した中国は、水で滅亡する」と書いたところ、関係筋から「中国の悪口を書くな、東京湾に浮かぶぞ」と脅かされたが、今では中国の水不足、水質汚染の深刻さは世界中の人々が知るところになり、筆者はまだ、東京湾に浮かんでいない。（笑い）

#### 5. 水は国家の安全保障

世界各国は水不足に直面し、

その水資源確保に躍起となっているが、日本には水処理に關して世界に通じる多くの技術を有している、その技術を世界に広げるべく、筆者は国際会議や、多くのマスコミで、水は国家の安全保障であり、国を挙げて取り組むべき課題と主張している。



いいものをいつまでも...

会長 藤井 厚生 (昭和32年卒)  
社長 藤井 政徳 (平成元年卒)

SHOP: 秋田市大町1-2-7 サンパティオ大町  
TEL 018(888)3800 FAX 018(866)8812  
www.jikodo.com

### 杉山 医院

杉山 好廣 (昭和32年卒)

秋田市土崎港中央4丁目8-10  
TEL 018-845-0678  
FAX 018-845-6824

株式会社 齋彌酒造店  
代表取締役会長 齋藤 純四郎 (昭和32年卒)



http://yukinobosha.jp/